

よりよい制服へ

わが学園の教育目的は、学生が「それぞれに親心に帰りその期待にこたえて精進する」ところにある。しかし正直、勤勉、清潔、和合、感謝の五訓を心として象ったものが白鳩のマークと愛称されている校章である。志を等しうして同じ学園に学ぶわれら同胞は、この校章を千鳥格子の制服につけ、比治山生としての誇りを持って大道を闊歩して欲しいものである。

さて、制服は、校章と共にわが比治山女子短大の象徴である。この象徴としての制服を身に着ける諸姉は、一人一人が比治山生としての誇りと自覚のもとに行動していただきたい。

一般に、制服は個性を没却するものといわれているが、元来制服は個人を越えた学園の性格を表象するものとして考えるべきである。つまり、制服は学園の特性を明らかにするものであり、千鳥格子の制服は比治山女子短大の性格を表象するものである。したがって、象徴としての制服は、女性のファッションと異なり、時の流れによって、むやみに変えるべき性質のものではない。

しかし、制服を規定することは、学生生活を規制することを意味するものではない。われわれは、情報社会に生きる現代人であり、現代社会の変化に適応した生活をすることは当然のことである。したがって、本学に於ては、既に学生部を中心とした服装委員会が発足しており、制服の本質を堅持しつつ「よりよい制服」に改善する研究が常に進められている。比治山女子短大を象徴する制服が、より美しくより着やすいものになるよう、学生諸姉の御意見を待つものである。

比治山女子短大新聞(昭・51・3・15)